

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年4月4日

学校法人聖カタリナ学園

幼稚園名	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園
園長名	藤井 澄子

1. 本園の教育目標

【基本方針】

聖カタリナ学園の目標である『人格形成の礎となる重要な幼児期教育の実践者であることを自覚し、幼稚園教育要領を踏まえながら、小学校との接続を見据えた質の高い前期初等教育を提供する。また、未就園児を含む園児とその保護者を対象とする活動に積極的に取り組み、地域との関係機関と連携・協力しながら、子ども・子育て支援機能を果たしていく』を念頭に、本園では、

- カトリック幼稚園として「こころの教育」を目標に、祈りの伝統を守りつつ見えないものへの畏敬の念や感謝の心を育む。
- 縦割り、横割り保育の併用により、異年齢の子ども同士の思いやりや優しい心を育む。
- 大学の教育実習施設としての機能を果たしながら、附属幼稚園として人的物的環境を活かし、専門教育を織り込んだ遊びを展開しながら教育力を高め、地域での幼児教育の拠点となれるように、園の存在や知名度を上げる。

【教育目標】 やさしい心、祈りの心、感謝の心を育てる

【目指す子どもの姿】

- 明るく生き生きとした子ども
- 神の恵みに感謝し、「ありがとう」と「ごめんなさい」が素直に言える子ども
- 良心の声に従って自ら行動できる子ども
- よく聞き、よく見、よく考えてやりとおす子ども
- だれとでも仲良く遊べる子ども

【教師像】

- 神に祈り、愛情・謙虚・忍耐を持って自己完成に務める教師
- 心身ともに健康で豊かな教育技術を磨き、研修実践を積極的に推進する教師
- 集団生活を通じて人間関係を育み、自主性・社会性・創造性の伸長を図ることができる教師
- 子どもをよく観察し、子どもから学び取る教師
- 幼児の内面的な生命を尊重し一人一人の可能性を伸ばしていこうとする教師
- 「一人一人がたからもの」をモットーに個人差に留意しながら心身の発達を助長を図り、安心して園生活を過ごすことができるよう楽しい経験の場としての生活環境を整えることができる教師

2. 令和5年度重点的に取り組む目標・計画

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 園児募集対策(目標:利用定員を満たす。広報活動を充実する) ② 教育活動(目標:これまでの教育活動を維持していけるよう努力する) ③ 人事管理(目標:残業を減らす) ④ 開かれた園(目標:社会と繋がる方策を検討し、園を公開していく工夫をする) |
|--|

3-1. 評価項目の達成及び取り組み状況(本年度の重点目標)

評価項目	結果	取り組み状況
<p>1) 園児募集対策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用定員を満たす。 ・広報活動を充実する 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は利用定員を減じ、年度末には30名となり各学年10名の目標は達成できたが定員を満たすことはできなかった。 ・4月よりインスタグラムを開設し、守秘義務に配慮しながら園内外の園児の活動状況を日々配信することができ、広報活動を広げることができた。 ・これまで実施してきた募集の説明会を個人対応に変更し、家庭に合わせて実施した。 ・小規模園だからこそできる丁寧な対応を周知し、附属幼稚園として大学との連携による教育力をアピールした。 <p>今後の対策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活で園児一人一人が自信を身につけて就学できる道筋を今後も維持し、本園の良さを周知していく。 ・「全園児に対して一人一人の個性を活かした教育ができており、特に困り感を持つ子どもに対して丁寧な対応ができる園」との評価がありこれをアピールする。 ・2歳児、満3歳児の受け入れを積極的に宣伝する。 ・幼稚園では満3歳になった日から無償化の対象になることを周知していく。 ・個人対応の募集説明には複数の来園者があったが、半数は入園とは結びつかなかった。 ・保護者アンケートの募集対策への意見も参考に、実施可能なところを積極的に検証していく。 ・2歳児と満3歳児、および1歳児を含めた親子教室の中身を精査し、「カタリナ ピッコロ」を活性化できるように取り組んでいく。
<p>2) 教育活動</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの教育活動を維持していけるよう努力する。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統の園生活習慣により、「感謝の心」や「優しい心」が全園児に育ちつつあり、自分の言葉で祈る姿も見られるようになった。 ・縦割りと横割りの併用で、特に下学年に対しての「おもいやりの心」を育むことができています。 ・園生活において、小学校への接続を念頭に、「10の姿」に繋がる子どもの活動や育ちを振り返り、週案の考察欄に日々記入できた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの継続を大切にしながらメリハリのある教育活動となるよう、静と動を計画に織り交ぜ、園児が集中できる時間帯を作った。 ・子どもの一人一人の育ちや困り感を教員間で共通理解して援助に違いが出ぬように配慮し、子どもが見通しを持って過ごせるようにした。 ・各学年の横割り活動では、年間を通して年齢や発達の個人差に配慮しながら、楽しく遊ぶことができるよう計画し実行できた。 ・各行事は1年間で一人一人が輝けるよう役割を工夫し、園児が各場面で自信を持って活動できた。 ・保護者との連携において園や家庭での園児の様子を意見交換し、困り感を双方で確認して園児が負担感なく過ごすことができるよう環境(人的・物的)を整えた。 ・クリスマス発表会の「聖誕劇」では1場面を減じたが、4歳児も活躍できるよう配役を組み換えて実施できた。また大学生に向けた「ミニ聖誕劇」では年長児のみで発表し、学生から温かい拍手をいただき喜びのうちに終了できた。 ・大学との連携を図り、健康スポーツ学科教員による「体育あそび」や「体力測定」、学生の実習の場として「キッズスポーツ実践」の活動ができた。また、看護学科実習生を受け入れ、年間を通して双方に有益であった。 ・短期大学部との連携においては、教育実習での学生受け入れの他、教員による「保健指導」や、学生による「オペレッタ」が園内で上演され全園児で楽しめた。 ・少人数にはなったがこれまでの教育活動を維持し、一人一人に丁寧にかかわることができた。
<p>3) 人事管理</p> <p>目標</p> <p>・残業を減らす</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勤怠管理については、自己管理が基本であることを周知し時間への意識をもって勤務するよう促してきた。 ・全員が調整手当内で収まった月は4回となり、行事と残業との相関関係が生じた。 ・残業になる一因に保護者対応の時間が伸びることで園務の時間内終了が難しかった。 ・各教員は熱心に教育に取り組んで活動の準備等も手抜きなく実施できており、能率を上げて働くことが課題である。
<p>4) 開かれた園</p> <p>目標</p> <p>・社会と繋がる方策を検討し、園を公開していく工夫をする</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季登園日に「附属幼稚園コンサート」を聖カタリナホールで開催し、卒園生のピアノやチェロの演奏、近隣中学生の打楽器アンサンブル、一般関係者のチェロ演奏などをプログラムにして、園児達が身近に音楽の鑑賞マナーを体験できる機会とした。インターンシップで来園した中学生が軸となる3人の打楽器アンサンブルは金賞を得たグループで、園が地域と繋がることのできた企画となった。 ・1月の「お正月遊び」に「まごまごクラブ」の祖父母を4年ぶりに招き楽しんだ。各ブースから賑やかな声が響き、世代を超えた交流の1日となった。

		<ul style="list-style-type: none"> 北条地区まちづくり協議会との交流は続いており、今年度も「サンタ訪問」でプレゼントが届けられた他、1月には全園児に当該協議会発行の「まちきょうえほん 2024」のプレゼントがあった。 その他の園行事は、今年度から参観人数制限を撤廃することができ、家族総出で賑わうことができた。
評価項目	結果	取り組み状況
5) その他 II. 地域との幼児教育センターとしての役割	B	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児と親子の集い「カタリナ ピッコロ」は担当を交代し、今年度は月2回に「音楽遊び」と「造形遊び」を交互に合わせ、「誕生日会」を開催した。プール遊びや運動会への参加、制作展に作品を展示することができた。 「カタリナ ピッコロ」への参加数は月によって差があったが、制作展前は10組の参加があり、出品を喜ばれた。 コロナ前には実施していた本園の「お雛祭り発表会等」への参加や大学教員の力を得て子育て支援の相談会や講演等の保護者向け企画の検討により、参加者増加や募集対策に繋がるかが今後の課題である。 特別養護老人ホーム「聖マルチンの家」への訪問は現在も面会時間の制限等が続いており残念に思う。
5) その他 V. 財務管理	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、監査法人(公認会計士)による会計監査を実施しており、財務管理は適切に処理できている。
5) その他 VI. 評価と情報の公開	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度「学校関係者評価」を令和5年3月に受け、4月上旬に公表した。 昨年度から保護者アンケートの結果と自由記述をホームページで公開している。 今年度から開始したインスタグラムについて保護者アンケートに守秘義務への配慮について意見がよせられた。同意を得て配信しているが、今後も細部に渡り慎重に精査して取り組んでいきたい。
5) その他 VII. 危機管理	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月開催の運動会は、温暖化により園庭での練習ができぬ事態となり今後の9月開催は困難との判断から、次年度は6月に開催することとした。 温暖化による気象変動で10月に雹が降りテラスタキロンに穴の被害がでて補修した。また、園庭に積もった霰が園舎に向かって押し寄せる事態となり、急遽土嚢積みを実施した。急な気象条件にもすぐに対応できる意識と訓練が必要である。 園庭の街路灯1機が突然破裂し3機を撤去した。園児が外遊びをしている時間帯であり幸い怪我はなかったが、古い施設や遊具等の点検を怠らぬよう危機管理への意識をもって取り組みたい。 これまで預かり保育時間を18時半まで実施してきたが、危機管理の観点から、次年度からは教員2名体制で18時までとする予定である。

4. 総合的な評価結果

評価結果	理由
園児募集 C	<p>令和5年度に取り組んだ重要課題の①から④とその他⑤の4項目について上記に自己評価を行った。ここでは総合的な評価をして令和5年度のまとめとしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最重要課題であった園児募集は、少子化が加速し保護者の就労時期が1歳児前後から始まっていることから、保育園や認定こども園を希望する家庭数が幼稚園への入園を上回る逆転現象となってきた。 インスタグラムの開始や丁寧な入園説明を行ってきたものの、募集にはつながらなかった。 幼児期の親子の触れ合いが生涯にわたって人生の基盤となることを周知し、家庭と協力して子育てを援助していける本園の良さと特色をいかにアピールしていくかが課題となる。 本園へ入園していただくためには、小学校接続を見据えた質の高い教育を提供できることや園児の自立と表現力の育ち、大学との連携による教育の展開や施設利用などに魅力を感じていただけるよう広報活動を充実していく。 各小学校に入学した本園卒園児は、「座って先生のお話が聞ける」との評価があり、本園での生活習慣が小学校生活にスムーズに移行していけることを周知する。 危機管理への取り組みを今一度見直し、すぐに対応できる力をつけていく必要がある。 子育て支援への取り組みとして、大学教員とも連携し、「カタリナ ピッコロ」や0歳～1歳への保護者に向けての子育て相談やレクチャー等を開催して社会に向けて開かれた幼稚園となるよう構築していくことも必要ではないかと思う。
その他 B	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼児教育センターとしての役割は十分ではない一因として、本園への通園区域が広域であり、地元との繋がりが希薄になりがちである。開かれた園となるための工夫として、園行事の広報と園と地域の方々交流促進を図ることや、各教員の地域交流への意識を上げていくことも必要ではないかと考える。 本園の教員は、子どもの困難さやその内面を読み取り、自立した生活が送れるように援助して、夢や希望を見つける道筋を示していけるようになってきた。この1年間で各教員の子どもに対応する教育力があらゆる場面で向上したと感じている。 教員間の連携がスムーズになされており、教頭を中心に互いに意見を出し合っただけで教材研究に励むチーム連携が構築されており、日々の記録からも園児の成長が確認できた。 教員の自己評価について、各教員に差があるが自分自身の見つけ方の差であると考え。日々の教材研究や園児への教材提供について、マンネリ化する面も見られるため、新しい園児との出会いを楽しみに、また在園児への成長を促す「わくわく体験」を試行して園児と共に成長してほしい。

※上記「3.・4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 学校関係者評価委員会の評価

1) 学校関係者評価の重点目標の内、今後も継続して取り組むべき事項(プラス評価)

<p>評価項目① 園児募集対策 目標 利用定員を満たす。 広報活動を充実する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化が進み幼児教育を取り巻く社会状況が変化していく中で、充実した教育活動への取り組みをアピールする正攻法の広報活動を大切にしていること、4月よりInstagramを開設し園の魅力を発信する努力をしていることなどは高く評価できる。 ・ 入園説明会を個別に対応するなど、保護者に寄り添った募集活動を展開している。 ・ 大学との連携、小規模園ならではの丁寧な対応、縦割り保育の魅力など園独自の魅力を広報活動に活かした園児募集を行っている。
<p>評価項目② 教育活動 目標 これまでの教育活動を維持していけるよう努力する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程や活動内容の充実ぶりは時折参観させていただく行事だけでも伝わってくる。教職員の「働き方」や園児の減少が課題となる状況で現状を維持できれば十分であると感じる。 ・ カリキュラムの「愛の精神」に基づき心を育む教育を基盤に実施している。 ・ 保護者との意見交換や子どもとの関わり大切にするを通して、子ども一人一人をより深く理解し、困り感に配慮した一人一人が輝ける教育活動を実施している。 ・ 大学の実習施設として教員との連携のもと保育者養成に携わっている。 ・ 「聖誕劇」等発表の機会を見学すると最上級の賛辞を送りたくなる教育活動が実現できている。 ・ 「教育課程」と「モンテッソーリ教育」と「宗教教育」の融和に努めながら教育目標の具体化に取り組んでいる。 ・ きめ細やかな対応が可能となる小規模園の良さを活かした取り組みがなされている。 ・ 人とのかかり合い、社会性や協調性、相手を思いやる気持ち等、縦割り保育を通じて生きる力を育てている。
<p>評価項目③ 人事管理 目標 残業を減らす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人に丁寧に向き合っているだけに、園児の数が少なければ軽減される業務もあると思うが、園児が減り教職員が減っても同じだけ時間がかかる業務もたくさんある。よく努力されていると思う。 ・ タイムカードによる勤怠管理をし、自己管理を徹底するよう意識付けをして全体の勤務状況を把握している。 ・ 教員の教育に対する熱意と努力、園児への愛情が伝わり取り組みは大変評価できる。
<p>評価項目④ 開かれた園 目標 社会と繋がる方策を検討し、園を公開していく工夫をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園外から多くの保護者や地域関係者等を積極的に迎え入れる活動が充実していてとても良い。 ・ 新企画として、聖カタリナホールで「附属幼稚園コンサート」を開催し、卒園生や近隣の中学生等のプログラムに卒園生や地域の人々を招いたことは、園と地域、社会をつなぐ機会となった。 ・ 祖父母による「孫まごクラブ」や「北条町つくり協議会」との交流を積極的に続けていることは、家庭観の繋がりにとどまらず、地域との繋がりを深めるだけでなく、地域の愛される園としてアピールできるきっかけもなっている。定期的に地域との交流がなされ評価できる。 ・ コロナ化で人数制限や中止となった行事もあったが、感染対策を実施し元の状態に近い形で実施できるようになったことは評価できる。

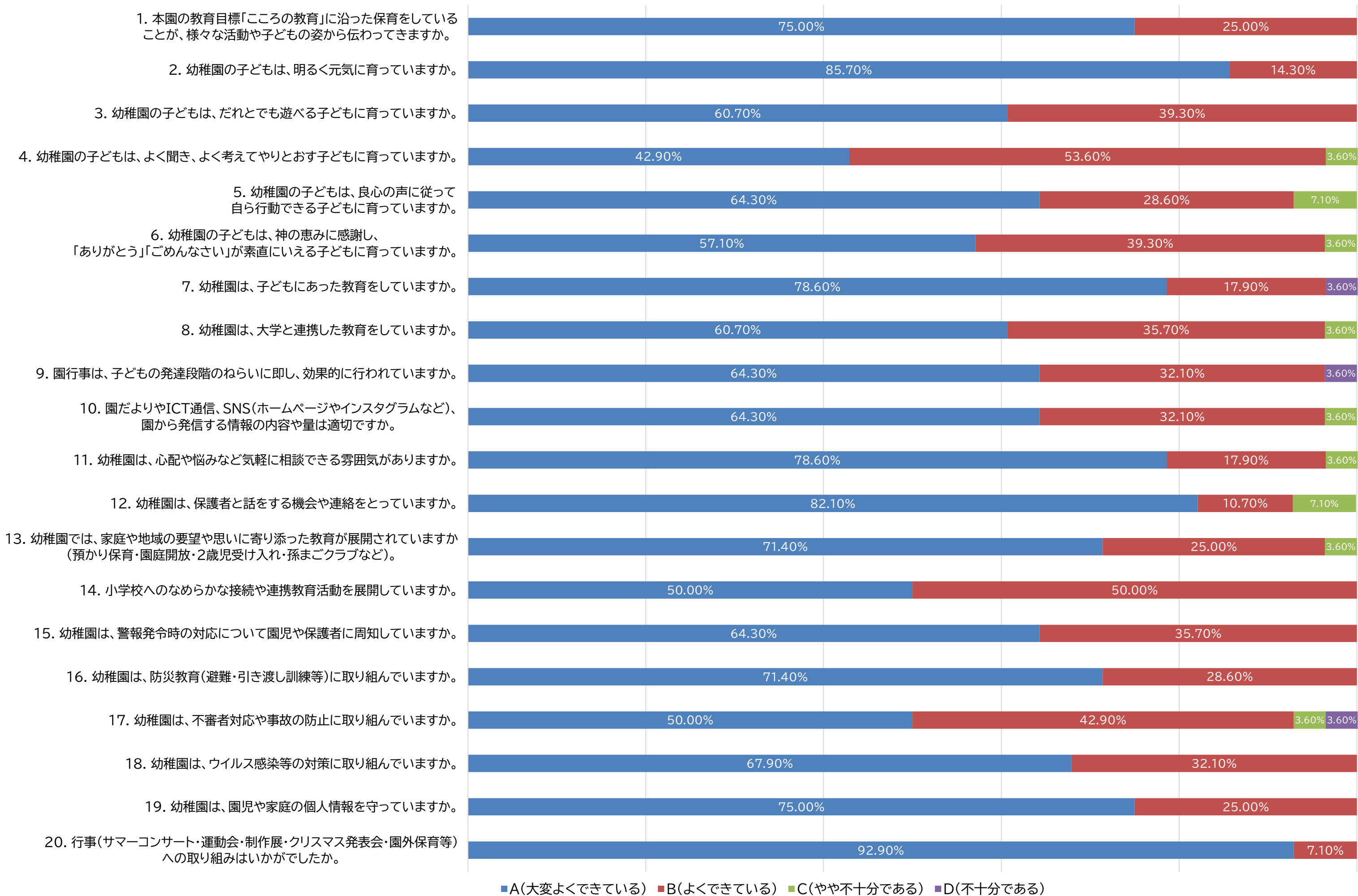
2) 学校関係者評価の重点目標の内、今後、改善・解決に向けて取り組むべき課題(今後の課題)

<p>評価項目① 園児募集対策 目標 利用定員を満たす。 広報活動を充実する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習施設」としての機能を求められる中、利用定員が減り続けていることが心配である。単なる「地域の幼稚園」に留まらない役割を担っているだけに、一層の努力が求められる。 ・未就学児を育てる保護者のニーズの把握に努め、そのニーズに応えるために学校法人と協議していくことも必要なのではと考える。大学との連携に強みがある点は城北地区、北条地区では本園のみである。これもしっかりアピールできると良いと思う。 ・利用定員に対する充足率という見方をすると数値的には改善されているが、望ましい園児数を獲得できているわけではなく、園児募集対策については厳しい評価をせざるを得ない。 ・適切なマーケティングがなされているのか。それを検証する方法として市場の情報を元に近隣に在住する対象年齢人口の把握に取り組むこと、教育方針や教育の質に反応していただける方々を見出す工夫、本園の情緒的な深さや情操教育の素晴らしさは、全国的に見ても類を見ない質の高さを持つものであることを自覚して周知してほしい。 ・募集活動では昨年に比べ格段に闊達な活動が実現しているので、IT 環境の活用をさらに充実できるよう、地道にその取り組みを継続する。 ・ウェブサイト(ホームページ)について、他園にはホーム画面等にドローンを用いた空撮映像や園児の動画映像を用いているものも多く見られる。「キャッチーな見た目」になるような取り組みはできないか。大学のホームページを参考にされると良い。 ・モンテッソーリ教育について、極めて重要なアピールポイントであろうが本園はヒットせず、この教育に触れる記事が十分ではない。ウェブサイトでも知らない人にも届くような状況ではなく改善が必要である。
<p>評価項目② 教育活動 目標 これまでの教育活動を維持していけるよう努力する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽だけでなく、美術(絵画)教育にも特色を持たせる教育はできないものか。それを広報素材として活用することが必須である。「絵画・お絵描き」が知育の上で極めて有効であることは知られており、これを体系化して「園の特徴的な魅力」としてアピールすると良い。 ・上質な教育を実施してもそれを第三者に知らしめることができなければ「園児募集」には繋がらないので広報活動に載せる工夫をしてほしい。
<p>評価項目③ 人事管理 目標 残業を減らす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・残業を減らすことは、経営面からみても求められていると思うが、教職員にとって仕事を通しての達成感や充実感など「働きがい」が感じられる職場であることも大切なので、バランスを大切にしながら改善に努めていただきたい。 ・園児数が減っても同じ労力を必要とする業務を洗い出し、業務改善に努めていただきたい。 ・長期休暇を利用し行事の準備を計画的に進める。 ・サービス残業、みなし残業の実態を調査し把握する
<p>評価項目④ 開かれた園 目標 社会と繋がる方策を検討し、園を公開していく工夫をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で途絶えた地域との交流活動をどうしていくか検討していく必要がある。広報にも資する活動であれば取り組む価値がある。 ・園行事に地域の方を招待するだけでなく、公民館や「まちづくり協議会」へのイベント等地域の活動に参加してアピールするのもよいと思う。広報活動の一環にもなる。 ・大学の施設を利用し、保護者だけでなく地域の方々との交流を目指し通園区域が広域であり、地元との繋がりが希薄なため行事を模索していく。

6.(1.~5.を踏まえて)今後本園が、重点的に取り組むべき課題(次年度の課題)

	課 題	具体的な取り組み方法
1	園児募集対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学との連携により、0歳～1歳への保護者に向けての子育て相談や講演等のレクチャーを開催する。 ・ ピッコロ活動を充実し「お雛祭り発表会」等園行事への参加や日々の保育見学などを推進する。 ・ 大学との連携による教育の展開や施設利用などに魅力を感じていただけるよう広報活動を充実していく。 ・ 大学との連携による美術(絵画)教育の充実を推進していく。 ・ 適切なマーケティングと保護者のニーズを把握する。 ・ 教育方針や上質な教育に反応していただける方々を見出し第三者に知らしめる広報活動に載せる工夫をする。 ・ モンテッソーリ教育についての充実と広報を行う。 ・ 大学との連携ができるのは松山北地区では本園のみであり、「教育実習施設」としての機能を求められる中、単なる「地域の幼稚園」に留まらない役割を担っていることの自覚をもって募集活動を行っていく。 ・ 幼児期の親子の触れ合いが生涯にわたって人生の基盤となることを周知し、家庭と協力して子育てを援助していける本園の良さと特色をアピールしていく。
2	危機管理への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖化により様々な気象変動と各地で災害が頻発しており、万が一に備えての危機管理に対する意識向上や避難訓練の実施をこれまでも増して具体的に組み込んでいく。 ・ 温暖化による気象変動にもすぐに対応できる意識と訓練が必要である。 ・ 古い施設や遊具等の点検を怠らぬよう危機管理への意識をもって取り組みたい。
3	新組織でのチームワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度から新園長が着任し、教員組織も1名減となって新体制でのスタートとなる。職員間の連携と協力をこれまで以上に構築できるよう、皆で心を合わせて教育を行っていく。
	○ 最後に	<p>学校関係者評価委員の皆様方から、各項目に対して貴重なご意見を賜り、ご協力をいただきましたことでのこの評価を続けることができました。年度末のお忙しいなか、ご尽力を頂きまして心より厚く御礼を申し上げます。</p>

以上



■A(大変よくできている) ■B(よくできている) ■C(やや不十分である) ■D(不十分である)